

# 同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

11  
2013  
NOVEMBER

山形県中小企業家同友会  
月刊 同友  
やまがた



## 幹部社員研修 第1講

社員の人生目標と会社の目標がひとつになる

第41回 中小企業家同友会全国協議会 青年経営者全国交流会in東京  
参加者からの感想 パート2

寒河江支部の活動紹介

中小企業振興条例元年

魅力を集い、  
共に歩もう!

# 社員の人生目標と会社の目標がひとつになる

山形同友会は、10月18日に社員共育委員会主催で幹部社員研修・第1講を開催しました。今年度は、経営課題を明確にし実践に繋げることに力をいれ、企業変革支援プログラムステップ1を活用しました。講師に、岩手同友会の代表理事で、信幸プロテック(株) 代表取締役 村松幸雄氏を迎え、「かけがえのない大切な人生をともに築く」と題して講演をおこないました。

特技が「創意工夫」で、小さい頃からの夢がエンジニアという村松社長。1974年に冷凍空調設備業とし創業しましたが、社長というより、当時は現場責任者そのもの。社員が増え就業規則が必要となり、勉強を始めた時に誘われて同友会に入会したのが1996年。翌年に経営指針を作成しました。それから16年、会社の経営指針書は社員一人ひとりの人生指針書の集合体で、社長は一人だが、社員みんなが経営者だといえます。

大事な点として、①現業の発展的維持、②事業革新(変革)、①と②を支えるために③人材育成を指摘し、若い人を育てる



リーダーシップの重要性を強調しました。

座長のまとめで、「改善のイメージが出来ましたか」と参加者に問いかけ、「一人では出来ません。でも大丈夫です。社長に協力してもらってください。今の方法では出来ません。でも大丈夫、出来ます。同友会を使ってください。今すぐは出来ません。でも、段階的に継続して取り組めば必ずできます。小さい1歩からやりましょう」と激励しました。

現状を認識し、11月15日第2講まで、各社で経営者と認識を共有し、PDCA実行(仕組みづくり)課題として終了しました。

## 講義 かけがえのない大切な人生を共に築く ～共に気づき、共に築く／共に学び、共に育つ～

講師：信幸プロテック(株) 代表取締役 村松幸雄氏 (岩手同友会代表理事)

当社は設備業として昭和49年に発足し今年で41年経とうとしています。前半の20年間が経ってからやっと人が辞めるのは自分のせいだと気づき、それを改善するのに10年かかりました。そして、2000年代に入り、わが社の経営者は社長だけではなく、意識上では社員の皆さんも経営者になりました。

### 何のためにを考える

「何のために生まれてきて、何のために生きていますか」「今後、どういう風に生きるのか」という問いは難しいですが、ここが明確であれば全ての事に計画を立て、行動ができます。ここに私は気づきました。

そして、「何のために働くか」です。働くことは命をつなぐ源です。「何のために働くのか、どう生きていくか」を真剣に考えてみましょう。マズローの五段階欲求説を私なりに考えました。働くことは命をつなぐことでご飯を食べなければ死にます。そのために働くのであれば食うために働くことで、将来より今、自分のことで精いっぱい状態です。

仕事が続いてくると安定を求め、少し将来を考えます。将来が心配になると、人に認められる仕事、給料が高い仕事をしたくなり、身近な仲間に褒められたいと思います。次に取引先、地域社会の方々にも認められたいと思います。人間は誰かに認められたいと思う気持ちが強く、給料よりも認められることが自分の価値観になっていきます。尊敬される、お役に立ってお礼を言われる。これは人間の欲望、原点にあることで自分の成長に満足を感じます。

会社を辞める一番の要因は給料やキツイ労働より自分が成長できないと感じる職場への阻害感だそうです。一方で、成長が促進される社風の職場では夢を具現化させたいと自ら成長ストーリーを描き行動します。そしてある年齢に達し

自分がしたいことが実現できるようになり、成長の証にいろいろな方々から認められ、天職と思うようになっていきます。これは自分が自分を認められる天職の最高の状態です。

食うために働いている状態では全て人のせいですが、上の段階では自分のせいと気づきます。一緒に考えよう「何のために働くのか」を社員の方に問いかけています。

### 65歳の自分はどうなりたい

「私の人生設計書」の記入をお願いした最初の頃は、「今度の週末の予定は分かるが、先の事は分からない。分からない事を書いてどうするの」という返答だけで、ほぼ全員が面食らっていました。社長も社員も、かけがえのない一生を共に過ごす職場は楽しく充実していなければなりません。その為には仲間と「働く意味と価値観」を共有し、共に夢を実現させるために育ちあい、支え合ってこそ可能になります。その二度とない自分の人生劇場の原作を自らの手で書き上げ、自作自演をして成長していくことの大切さを社員に切々と訴え続けました。

といってもほとんど社長の言うがままにさせられていたといっても過言ではありませんでした。しかし5～6年も続けていると最初に書いたことはすでに過去に描いた今の自分であると気が付くことになり、未来も描いてみたくなってきました。そんな社員が少しずつ増えてきて遂には大半に蔓延し、社風になっていきました。そして仲間との関係性も重要と気づき、「共に支え合い、叶え合う」社風ができていきました。トップリーダーである社長は、良しと信じたことはやり続けていくことの大切さをここでもまた学びました。

自分が歳をとることに気が付かないと、計画的に自分の人生を組み立てることが出来ず、なりゆきのままで取り返しの

つかない人生になってしまいがちです。人生を組み立てる「ワークライフプラン」をつくることはとても大切なことです。

当社の二番目の経営理念は「私たちは我社のビジョンと同時に自己の夢の実現に真摯に取り組み、物心ともに豊かで幸せな人生を築きます」です。これを「私たち」から「私は」に読み替えています。経営指針書作成時の原点は「私は」というフレーズです。私は人生をどう生きたいかを考えなければなりません。「わが社の前に」私です。

65歳までの人生設計書、10年ビジョン、今年の計画をつくり、そして、なりたい自分に向かってどうするか。私は自分の人生の経営者です。経営理念の一番と三番にはお客様、社会と三方よしのことをいっている。これをみんなで実現するための会社の経営指針です。でも原点は自分がどう生きて、どういう風にしていくかです。自分がだけでは思うようにいかない、会社の仲間と一緒に育っていかねば無理です。

### 大切な人生を共に築く

「学ぶこと」について真剣に取り組む社員が出てきています。させられているのではない。自分の人生をこういう風にしたい、仲間と一緒に育ってこういう会社になり、こんな所得を貰いたいと思う社員達が自分の計画を書き、経営指針書に入れて共有する。その実現のために、私達の部門は何をすべきか。それが部門計画になります。

結婚し子どもが生まれ、小学校から大学へと進みます。そのお金は誰が払うのか。その時、自分がどんな価値を生む状況になっているか。先を読むとは、こういうことです。どうしたら豊かで幸せな人生を築くことが出来るのか。自分の計画を立て真剣に考えてみましょう。

資格取得や能力を持つことは、「させられる」のではなく、自分のためにすること。たくさんの能力を持ったプロの集団、私達の会社は設備の総合病院というタイトルです。高い次元の工事から保全・修繕・改善・掃除の仕事も出来る。そのために何を勉強し、どんな資格取得が必要か。社員達は資格試験をどんどんパスしています。私は未来について自分のことを真剣に考えるというのは、すごく大切な場面と思っています。

10年ビジョンでは、10年後のあるべき姿としてこんな風になりたいと具体的に書き、実現するための戦略・戦術、ロードマップをつくります。それから1年間の自己啓発計画書です。現在の仕事、これから経験したい仕事、自分の強みなどから仕事を進める上で啓発の必要のある知識・技術・態度を出します。そして、自己啓発課題に優先順位、設定理由、方法手段、スケジュールを書き、一年後に結果を書き込みます。

私は計画することで、次の段階に上がると思います。人生の設計書、指針書を成し遂げるための自己啓発計画に取り組む事が大切です。それをお互いに持ち合うことで、お互いのやろうとしていることが分かり、フォローの仕組みもつくる事が出来ます。

### 共に学び共に育つ

共に育つ仕組みはとても大切です。私たちの会社の中では二年に1回、新卒を2名採用しています。以前は配属されても忙しくて育てられないので即戦力の中途採用がいいとか、部門予算的に膨らむので不要だらけでした。最近では真逆の争奪戦です。配属して欲しい、面接に参加したい、計画に盛り込みたいと言ってきます。「我社の10年ビジョン」で見え、部門経営のリーダーとして動き出すようになると、社長が言わなくてもいいようになってきました。

私の大切な役目は、未来を自分の考えとして皆さんに提示すること、10年のロードマップをしっかりと作成すること。これを社員は肉付けして自分たちの計画に入れていきます。

私の吹いたホラを実践し、実現してくれたのは社員の皆さん。私は経営者の科学的根拠のホラSF(サイエンス・フィクション)をビジョンと言っています。サイエンス・フィクションで未来を語る。そのために、こういう風に段取りをしていると伝えます。そうでなければ社員も未来を語りません。私はこのSFに登場する社員(俳優)の脚本参加が経営指針だと思っています。

小さいけれども存在感のある会社になるためには、社長一人が頑張ってもできません。社長は法律で会社に一人しか認められませんが、経営者は何人いてもいい。経営指針書には社員全員の人生指針書が集まります。全員が自分の人生の経営者です。経営指針書はその人生経営者集団が人生をかけて演じる人生劇場の台本です。しっかり演じきらなければなりません。

人間は立つことで手が自由になりいろいろな事をするようになりました。毎日、自分の手がルーチンワークで埋まっていたら考えることができない。新入社員を育てられない。自分の仕事をやってくれる人をつくらなければ次のステップの仕事ができません。部下を育て、部門をどう育てていこうかが重要成功要因となります。

そんな意味で今は「それぞれの後継者づくり」を重要テーマの一つとして社内で行っています。自分の仕事を奪い、取り上げていただき、次のステップに押し上げてくれる若手後継者をそれぞれの立場で実現できる仕組みづくりです。その初期的部分が新卒採用なのです。やっとそこに気が付き始めた会社です。今後の社員のみんなの台本脚本、人生劇場の原作が楽しみです。



## 参加者からの感想 パート 2

前号に引き続き、平成25年9月12～13日開催の「第41回中小企業家同友会全国協議会青年経営者全国交流会 in 東京」の報告です。

東京青全交2日目の全体会の中で、別府信太郎実行委員長から「1. 尊敬される次代のリーダーとして全人格的成長をめざそう」、「2. 学びを経営実践し、市場と雇用を創造して、社員が輝く企業をつくろう」、「3. 共に切磋琢磨する青年経営者の仲間を地域に増やそう」とする、「第41回青年経営者全国交流会 IN 東京宣言」が読み上げられましたことを追記させていただきます。

今回も「学びや気づきが多かった」との感想を頂きました。次年度の青全交は奈良の地で開催されます、皆様も是非ご参加されてはいかがでしょうか。



### 第3分科会 経営指針

やまがたシティエフエム(株) 代表取締役 青柳 等

今回の東京青全交へは、第3分科会の座長として参加しました。報告者は(株)ティスコ運輸の菅原社長ということで、とりわけ菅原社長の熱い想いや、指針から落とし込まれた取り組みの大切さを伝えることを意識しました。

グループ討論ではとても活発な討論がなされました。特にビジョンに関する事や、理念を社員と共有するための取り組みに対しての討議がされ、質問も多数寄せられました。これらの質問には、菅原社長から補足報告の時間でよりポイントを絞った補足をして頂け、大変学びが深められたと思います。また、座長のまとめとしては、以前青全交で座長をした時がありましたが、その時は報告内容に対して座長としてある意味客観的見解からの補足でしたが、今回は報告者と何度も打ち合わせを重ねることで、客観的且つ主観的に、報告内容と補足報告にさらに深みを持たせたま

とめができ、自己採点としては皆様との公約通りにきちんと報告を作れたと思います。菅原社長の奮闘に感謝申し上げます。

全体会の基調講演では、(株)マザーハウス代表取締役兼チーフデザイナー山口絵理子氏からの講演で、20代前半の女性が単身海外に渡り、経営者として鍛えられていくお話でした。

高い理想を掲げ、全身で打ち込むことで運が味方してくれる。そしてその関わる全てに感謝して生きること、周囲が味方してくれるという素晴らしい生き方だと感じました。

新宿のショップで求めたマザーハウスのショルダーですが、とても気に入って使ってます。

### 第3分科会 経営指針

(株)アイディア 代表取締役 北風 秀明

分科会は我が山形同友会の菅原社長の報告で、考えさせられる点が多く、その後のグループ討論は大いに盛り上がり、経営者がしっかり方向性を示し、社員さんを巻き込んで共に成長していく会社づくりについて熱く語り合いました。

全国大会に参加して来る方々のモチベーションは非常に高く、積極的に発言する姿やグループ長の力量など、多くを学びました。

地方で小さく経営している僕たちの会社と、都会で20億円以上売上がある会社でも、結局は経営者の悩みの多くは同じだと分かり、非常に勇気づけられました。

翌日の山口さんの講演は笑顔が素敵過ぎて、やはり輝いている人はオーラが違うなあと思いました。自分の好きなことを仕事にできる喜びを、周りの人に感謝しながら精一

杯表現している姿に、とても魅力を感じました。

日々の仕事に追われ、経営について小手先の手法のみを学びがちな私たちですが、やはり経営の心髄は「人生をかけてやりたい仕事をする」なんだなあ、自分を顧みて原点に戻らせてくれました。



この度の東京青全交では、第5分科会『社長、辞めるか?』の一言で気付いた、真のビジョン経営』のテーマで、(株)アルファメディア代表取締役 小湊宏之氏の報告に参加しました。

システム開発会社という事で、同業社がどのような舵取りをしているのかを、弊社の方向付けの参考になればという視点と、技術者を巻き込んだビジョン経営への取組みの具体例に期待し、参加させていただきました。

内容は社長を引継いだ後の4,000万の赤字からの全社一丸体制による取組みや、「ものづくり」を活かしたビジョンと方向付け、組織作りの実践報告でした。

現在は幹部社員を巻き込んだ指針作りを実践しており、とても良い方向になっていると笑顔で話す小湊社長がとても印象的でした。きっと社員も生き生きと働ける環境になっているのだと感じました。

「ものづくり」が先行しそこに組織がついてくるという弊社と似た環境に、幹部社員の育成が課題とも感じましたが、自社の強みを活かした商品づくりと取組みには、活かせる点がいくつか見つかかり、来期に活かしていこうと考えています。

グループ討論は、参加者のほとんどが若手経営者で討論としてはまとめきれなかった感がありました。

グループ長のリーダーシップがもっと発揮されればと

感じましたが、逆にこのメンバーの年代と会歴から判断すると、私自身ももっとサポートすれば良かったかなとも反省しております。

#### ◆学びと気付きとして

- ・理念を実践していく商品とサービスの創造が重要である。
- ・これを実践して行くためには幹部社員の育成が必要である。
- ・幹部社員を巻き込んだ指針づくりをやらないとカラ廻りする。
- ・手法として「企業変革支援プログラム」の活用が最適。

そして今回の一番の感想は、山形同友会のグループ討論は質が高い!!」です。参加させていただき誠にありがとうございました。



## 記念講演

山形大学 教授 福島 真司

この度は、本務の都合で2日目のみの参加で、(株)マザーハウス代表取締役兼チーフデザイナー山口絵理子氏「途上国から世界に通用するブランドをつくる～国境を超えたモノづくり・チームづくり～」を拝聴しました。

私にとって今回の青全交の参加は、同友会全国大会3回目目の参加となります。

一度目は2010年に山形で開催された青全交。この時は、山形同友会との連携授業「山形を元気にする企業家に学ぶ」の初年度であり、学生共々参加させていただいた思い出があります。

(株)マザーハウス代表取締役兼チーフデザイナー山口絵理子氏については、連携授業の第1講で必ず取り上げさせていただいている方です。テレビや書籍では存じ上げておりましたが、実際のご講演は初めてお聞きしました。

ご講演は、語り口のさわやかさ、気負いがいい中で世界を背負うしなやかさと、その壮絶な覚悟のギャップ。裏切り続けられても途上国の人々を育て、共に成長しながら信頼関係をつなぎ、社員さん達を愛し続けている想いに触れ、書籍や映像だけでは決して感じる事の出来ないその場の空気に心から感激し、青全交を企画された皆さま、参

加され雰囲気を作り出した皆さまに、只々感謝の気持ちで一杯となりました。

10年後、振り返ったときに「この講演を聴き、自分の人生はあの時をきっかけに違うステージに向かった」と、振り返ってそう思えるような生き方をしたいと胸が熱くなり、涙を堪えるのが精一杯の深い感銘を受けました。

私も連携授業等を通し、「若くから生きる目的を求め、それに気付き、想いを持って困難に立ち向かい、人を愛することを大切にしながら仕事を続けていける若者を育てたい。また、仕事や働くことを通じ、生きる喜びを分かち合える若者達を育む地域を創りたい。そのシーンの実現に私自身の人生を賭けたい。そのために自分自身が成長し続けたい」と今強く思っています。

46歳の中年のおじさんが、若い女性の生き様に圧倒され、涙を堪えるのが必死の思いだったわけですが、ふと周囲を見ると経営者のみなさんもうるうるしており、この感動のつながりが同友会の魅力を支えているのだと妙に納得しました。

この度は、本当に素晴らしい機会を与えていただき、有り難うございました。心より深く御礼申し上げます。

# 寒河江支部の活動紹介

寒河江支部は、「学べ！気づけ！挑め！『進む道を示すために…。』」のローガンのもと、新たな取り組みとして、これまで支部幹事中心の例会を、全会員が何らかの形で関わられるよう、「組」編成にした例会づくりを始めました。「安藤組」「後藤組」「若木組」「水戸部組」の4つの組が、報告者の選定、うち合わせ、参加呼びかけ、当日の運営（座長・室長・グループ長）、例会報告書まで作成します。

## 「良い会社ってどんな会社？」

9月例会は水戸部組が担当し、「良い会社ってどんな会社？」と題して、たからもん農場の齊藤氏がコーディネーターを務め、会員企業の社員さん、(有)住まいる一む情報館 渡辺郁恵さん、(有)鏡畳店 尾形航さん、(有)水戸部塗装 大津義和さんがパネリストとして、社員の視点から問題提起をしました。

良い会社について、「信頼できる上司の存在。仕事の中にやりがいを感じる。成長を実感できる。チームワークがいい。社員の個性が発揮できる。自分のアイデアが採用される」などの率直な意見が出されました。また、「お客さまからの評価。会社で全面的にバックアップする」と言われ



たこと」と、働く喜びについて、自分の仕事が社内外から認められた時に実感していることが伝わってきます。また、「一緒に走りたいので、社長にゴールを示してほしい」との声も出ました。ひきつづき、グループ討論でも、熱く語りあいました。

当日、座長を担当した水戸部氏は、以前、他社の社員が「うちの社長は、何をしているかわからない」と言っていたことが気になり、今回の例会を企画しました。社員に経営者の思いを、経営者には社員の思いを知る機会にしてもらいたかったといいます。最後に「カンパニーの語源を知っていますか」と問いかけ、「ラテン語の語源でパンを共に食べる仲間。企業は幸せになるための抛り所、良い会社をめざし一緒に努めていこう」とまとめました。

参加者からは、経営者と社員の距離が近いのが中小企業の魅力である。社員はお金のためだけでなく、やりがいやお客さまからの感謝の気持ちに応えようとしていること、自分の仕事・会社に誇りを求めていることを掴んだとの感想が多く寄せられました。

「例会の準備段階から学びあえることを、一人でも多くの会員の方に知ってもらいたい」と語る佐藤支部長。始まったばかりでまだまだ手探りの状態だが、「組」間の連携を強めながら、会員さんに例会づくりの魅力を伝えていきます。

## 「同友メール便」「e.doyu」利用のお知らせ

日ごろより、山形同友会の活動にご理解ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、このたび会員さんの営業支援を目的に、同友メール便、e.doyu(組織支援活動システム)で、広告物の同封および掲示が利用できるようになりましたので、お知らせいたします。希望される方は、下記のルールに従ってご活用ください。

**\* 同封できる内容、料金等は下記のとおりです。**

### 1、同友メール便(定期便)の場合

- ①会員企業のものであること。(所属する他団体のものは不可)
- ②内容について、経営に役立つもの、物品販売も可
- ③同封できるサイズはA4、1枚まで
- ④有料制とする。  
基本料金1000円+(1枚10円×発送部数)
- ⑤多数の依頼があった場合、先着順とし毎月5件まで
- ⑥同封の可否は、事務局で精査し常任理事会で承認
- ⑦申し込みは、発送日の2週間前まで(発送日が毎月月末)

### 2、e.doyu 掲示板を利用の場合

- ①会員企業のものであること。(所属する他団体のものは不可)
- ②内容について、経営に役立つもの、物品販売も可
- ③添付できるデータは、A4サイズ1枚  
(データ送付先: Email: info@yamagata-doyu.jp)
- ④有料とし、料金は5000円
- ⑤事務局で精査し常任理事会で承認後掲示
- ⑥掲示期間は1ヶ月以内とし、期限があるものはその期限まで

# 第6回理事会報告

◆日時:2013年10月9日(水)16:00~18:20 ◆会場:同友会事務局 ◆議長:中村副代表理事  
◆出席:青柳、阿部(和)、阿部(秀)、安藤、越前屋、伊藤(尚)、及川、齋藤、佐藤(一)、島貫、庄司、菅原、中村、松田、若木、川合相談役、事務局:伊藤、矢作、高橋 出席数:19名

中村副代表理事が議長を担当し、開会挨拶で松田代表理事が「伊勢神宮の式年遷宮のニュースがありました。山形同友会も2005年に20周年を迎え、8年経過し、40周年に向けたソフトチェンジの時期です。伊勢神宮は変わり続けているからこそ変わらない。次の世代に形やこころを新しく伝えていく。この思いをかみしめて経営にも、同友会にも活かしていきたい」と述べた。

## ■報告事項

### 1) 中同協関連

#### ①新e.doyuの件(伊藤事務局長)

導入失敗のお詫びとその経緯、開発会社との契約解除について説明。詳細は中小企業家しんぶん(10/15号)でお知らせする。

### 2) 行政関係の報告

#### ①庄内地域意見交換会(9/11(玉津理事の文書報告))

②金融庁意見交換会(10/3)(松田代表理事) 大きな国の流れを総括すべきと考え、第1に、中小企業憲章ができた背景を再確認する。第2に、民主党時代から続いた「小さな企業成長会議」が、自民党政権になって「小さな企業成長本部」として存続している意義、第3に、国、県、市町村が裾野である中小企業の声を聞き始めている。我々も勉強して積極的に発言、提言し続けることが必要。\*当日配布資料は、金融庁の理解を得て閲覧可能。(事務局保存)

### 3) 委員会関連

#### ①経営指針委員会(菅原理事)

「第19期経営指針をつくる会」の取り組みについて、経営指針を知る会(1/25)、財務プレセミナー(2/8)、第1講2/22から始まることを報告。

#### ②社員共育委員会(阿部理事)

10月から始まる幹部社員研修、新入社員フォローアップ研修、11/20、21の「第26回社員教育活動全国研修・交流会 in 秋田」の参加要請があった。

### 4) 半期決算報告 (伊藤事務局長)

■承認事項(入・退会承認) 3名入会、4名退会 10/9現在406名

## ■討議事項

### 議題1: さらやか銀行との連携について

はじめに青柳副代表理事より、さらやか銀行新商品の説明があった。さらやか銀行との事業連携強化のための経営支援や新商品案内のために、行員による会員訪問の提案があり承認された。また、会員へのPR活動(支部例会、第11研)が決まった。

### 議題2: 2014年度活動にむけて

安藤代表理事より、新年度代表役員の人選の経過報告があった。専務理事職を新たに設けることが提案され承認された。それに伴い同友会規約を改正する。また、会計処理規定を作成することが決定した。

### 議題3: 同友メール便の利用について

松田代表理事より、会員企業の同友会メール便(定期)の利用についての提案があり、経営支援を目的に同友メール便、e.doyu掲示版利用を決定し、ルールを決めた。

そのルールを、全会員にお知らせをする。(理事会後にe.doyu掲示版にUP)

## 議題4: 第11回経営研究会について

庄司実行委員長より、10/3、4の両日、(株)菓匠Shimizuを企業訪問と打ち合わせの報告があった。基調講演の学びのポイントの説明があり、参加呼びかけで活用してほしいとの要請があった。

参加者集約目標は、①第1次集約:10月31日(木) 目標:50%(100名)②第2次集約:11月12日(火) 目標:80%(160名)③第3次集約:11月21日(木) 目標:90%(180名)を確認。

各分科会のねらいとグループ討論テーマがあり、11/6グループ長研修の参加要請があった。

・日時:11月6日(水)18:30~

・会場:山形ビッグウイング 401会議室

・講師:中同協 事務局次長 池田泰秋氏

## 議題5: 組織づくりの課題

毎月「9日増強デー」の各支部の取り組みについて、各支部の報告があった。

支 部	主な活動内容
山 形	今年から始まった3つの研究会が8月からスタート。9日の増強デーに幹事会を設定し、ご無沙汰会員には「はがき作戦」を実施。
寒 河 江	組編成の例会が順調に取り組まれている。毎月9日増強デーを取組み、10月は第11研のDM発送する。
さくらんぼ	50名を達成。地道な活動で、目標を常に上回る取組をしていく。例会のワンゲスト運動、対象者の訪問を地道中。
置 賜	今月2名入会。例会ワンゲスト運動と入会対象者の訪問活動をしている。
庄 内	酒田地域の会員増強に力を入れている。

「増」と「強」の取り組みを確認した。

## 議題6: 事務局業務改善にあたって

安藤代表理事より、事務局業務改善の一環として長時間労働を少なくするために、10月より、支部例会に合わせて始業・終業時刻の変更について報告があり、確認された。

## 議題7: 「山形エクセレントデザイン2013」の募集の告知依頼について(県産業政策課)

伊藤事務局長より提案され、e.doyuの掲示版に掲載することが決まった。

## ■その他

1) 青柳副代表理事より、山形新聞企業データベースの取り扱い協力要請があった。

2) 次回理事会

●日時:11月13日(水)16:00~18:00

●会場:同友会事務局

## ■閉会挨拶 (安藤代表理事)

我々の仲間がグローバルな視野で活動しています。寒河江支部の会員で、インドで開催される「EXCON2013」ジャパン・パビリオンに出展します。このような活動を紹介し、増強の一端にしていきたいと思います。

## 新会員紹介

### ◎奥山 浩氏

西道精工(株) 取締役工場長  
業種 金属部品加工業  
さくらんぼ支部

### ◎井上 勉氏

井上自動車工場 代表  
業種 自動車整備業・钣金・車両販売業  
置賜支部

### ◎平吹 修氏

平吹社会保険労務士事務所 代表  
業種 社会保険労務士業  
置賜支部

## 支部・会員名・企業名・役職変更

- 株山形再資源産業(さくらんぼ支部) 代表取締役社長 石澤義樹氏  
⇒ 山形支部へ移動
- 大富農産(山形支部) 代表取締役 佐藤佳夫氏  
⇒ さくらんぼ支部へ移動・代表取締役 櫻井清晴氏に変更
- 有武田自動車(さくらんぼ支部) 代表取締役 武田博志氏  
⇒ (株)タケダ自動車へ変更

## From Editor

★ノルウェイに住む友から冬時間になったとの便りが届き、山形も一気に初冬入りしていることを実感します。夏から秋へそして冬へ。この1年を振り返るのがちょっと嬉しい時でもあります。同友会は会員さんのことを辞書に例えることがあります。一人一人の人生体験に味があり、生きた学びになるからでしょう。★今年も多く経営者から学ばせていただきました。先日、幹部社員研修の講師として講義をしていただいた岩手同友会の村松社長。長い付き合いですが、実は、経営体験をお聞きするのは今回が初めて。会場までの車中で、創業のきっかけや仕事への思いを教えてくださいました。6歳の時にエンジニアになりたいと思い、64歳を過ぎた今でも進行形。お客様の「困った」を新しい仕事に、住宅設備部門、地域環境保全へ

と事業領域を広げているのは、趣味が「創意工夫」ならでのこと。★ある日、A社長にぜひ見せたいものがあると声を掛けられ訪問することに。54歳で創業10年経ったご自身の歴史と会社の歴史が1冊の本にまとめられていました。完成までの過程もドラマですがA氏の生き方が実に魅力的。「指針づくりの時はボロボロだった。企業の目的が利益ではないということが理解できたのが最近だよ」と笑って語ります。現在は60名のスタッフになり、将来の夢も描かれています。★日本は四季がはっきりしているからか、人生を四季に置き換えて表現します。人生50年から80年の時代になり、一生現役でいたいと思う方も増えています。第一線を退いてもアンコールの拍手が送られるような生き方をしたいものです。(由)

# 社員と共に夢を叶える 「菓匠Shimizu」を訪ねて

第11回経営研究集会に向け実行委員会では、10月3日に「菓匠Shimizu」を訪問し、「菓子創りは夢創り」と語る清水慎一社長よりお話を伺ってきました。

長野県の伊那インターチェンジから車で5分ほどのところにある「菓匠Shimizu」は、フランスのプロヴァンス地方を思わせるデザインの店舗で通る人を惹きつけます。

店内はホールケーキやショートケーキを並べた洋生菓子のコーナーと焼き菓子や和菓子のコーナーから成り、L字型のお店となっています。ショーケース越しに、厨房を見ると、お菓子づくりに取り組むスタッフの姿が飛び込んできます。2階には広い喫茶コーナーとお菓子づくり教室のための厨房があります。



訪問した当日は夕刻というのに、お客様がひっきりなしに訪れていました。人口約7万人の伊那市にあって、平日でも200人以上が来店します。それを支えるのが、お客様に寄り添い、優しい笑顔で接客するスタッフの皆さん。同社では、お店とお客さんではなく人と人として、自分のおばあちゃんだったら、おじいちゃんだったらと、問いかけながら目の前にいる人に寄り添う接遇に取り組んでいます。

翌朝、朝礼に参加するため訪れると、「おはようございます」の笑顔の挨拶が飛び交います。同社の笑顔の定義は「最幸の笑顔」、まさに目の前の人に幸せを届けてくれる笑顔が印象的でした。あんな笑顔で出勤してくれる会社はすごい。

訪問した実行委員長、副実行委員長が、基調講演の聴きどころを紹介します。

## 実行委員長 庄司 薫

菓匠shimizuの店内は、いつ伺っても活気があり、笑顔と元気でみちあふれていて、店内に入るとみんななぜか魔法にかけられたかのように、わくわくして笑顔になります。

そこには、スタッフの夢を共有し、想いを共有している経営者の姿勢が有ることを強く実感致しました。そんな清水社長の基調講演からは「組織づくり」のヒントがいっぱいです。たくさんの方の参加をお待ちしております。

## 副実行委員長 阿部和人

清水社長の経営に対する思い・取組みを伺った中で、私が何より驚いたのは社員とのコミュニケーションの圧倒的な「量」です。

清水社長はご自身の夢や理念を社員の方々と仕事を削ってでも、とことんお話になるそうです。

そして社員に常に気配りし、細かい異常にリーダーと共にフォローしていらっしゃいます。

この社員との関わり方(ビジネスコミュニケーション)は必聴です!

## 副実行委員長 島貫 栄

入った瞬間、暖かい雰囲気的空間とスタッフの皆さんの声が、各コーナーから聴こえ、とても心地よくなりました。

清水社長のお話には吸い込まれそうな気がしました。親子の葛藤や社員との本気の話し合いを繰り返しながら共に育っていく。中でも長男の誕生で、スイッチが入り親への感謝を気付くことができたこと。それにより、家族ミーティングを始めてから、大切な順番は、社員、社員の家族、取引先、取引先の家族そしてお客様であるとブレない話である。経営者としての自己改革～人間共育(労使関係)～地域との関わり～同友会で学ぶところが凝縮された内容です。

当日の参加者の皆様には、清水慎一社長のパワフルな講演から「やる気のスイッチ」と「気づきのスイッチ」を共に学びましょう。

## ～第11回経営研究集会に参加しよう～

日時：11月28日(木)午後1時30分開会

会場：ホテルメトロポリタン山形



同友やまがた11月号(2013年11月1日発行/通巻248号)



“知り合い、学び合い、援け合い”  
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴェン 102号  
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583  
URL:<http://yamagata.doyu.jp/> E-mail:[info@yamagata-doyu.jp](mailto:info@yamagata-doyu.jp)